

御菓子處 五島

中央区赤坂3-1-21

用途:店舗・住宅

完成:2002年3月

所有者:五島也寿生

設計者:柿沼守利

施工者:(株)川原工務店



職人は職に対して一徹であると同時に生き方も一筋なのであろう。周囲が閑静な住宅街、正面が女子高という商売には凡そ不似合いの環境の中で、目立ちたがらないが自分の主張は頭として譲らない店構えはそのことを物語っている。店頭に潇洒な植物を持ち込む手法は最近の流行りであるが、通常なら軒下の空間に合う植物を採用するのがせいぜいであろう。樹幹の高さに合わせて庇に穴をあける頑固さは、同時に店頭の鉢の中で飼われているめだかなど生き物へのやさしさを象徴している。2階の植栽も嘗てはこの地を被っていた近隣里山の樹林地へつながる思いやりを感じる事が出来る。朝に夕に垣間見るこの風景から頑固さはやさしさでもあるということに気付くには女学生では若すぎるだろうか。

(審査委員 岡本 均)



銀の桃

中央区大名2-1-41

用途:飲食店

完成:2001年9月

設計者:(株)スーパーダイニング

施工者:(有)渡辺石彫工房



ビルの中にひっそりと佇む小さな家といった感じだが、実は若い女性を中心に人気のある飲食店である。大正末期に建てられたという、実に築80年は超える一軒家をほとんどそのままの姿に残している。入り口に植えられているモミジやクロガネモチの木々が、忙しすぎてはっと一息つきたい現代人を優しく迎えてくれる。我も我もと自己主張する斬新な建物が多し中、この昔ながらの奥ゆかしさがかえって人びとの目にとまるのかもしれない。この懐かしい香りがする民家が、大名というまちの記憶を今に伝えている。

(審査委員 鹿野 至)



西南学院 舞鶴幼稚園 早緑(さみどり)子供の園

中央区烏飼1-6-1外

用途:幼稚園・保育園

完成:2002年11月

所有者:学校法人西南学院

設計者:竹下輝和/牧敏司/

(株)一般社ヴェーリス建築事務所九州事務所

施工者:西松建設(株)九州支店



都心の幼稚園・保育園の未来形とはこうなるか、とそのあり方を考えさせられる。完成形がそこにあるのではなく、あらかじめ今後数十年にわたる時間の経過が計算に入れられている。通りに面した外観は無機質なアルミ、園舎のドアや床など人間のからだか触れる部分には、あえて天然無垢の木材が使用されている。陽光を浴びる子どもたちは乗足で内と外の区別なしに走り回る。橘井川から時折訪れる川蟹とたわむれ、庭先に現れる蟬の脱皮に目を凝らす。都会に育つ子どもたちには、このように凝縮した空間と時間が必要なのだ。グレーの金属、すっしりした肌色の木目、ページュの砂には、陸地の赤いサルビアがよく似合う。使い込むことで完成する、いわば未完の美がそこに見えてくる。(審査委員 落合 太郎)

